

行委員会から、上記の刊行について予約申し込みを機関誌に告示方依頼があった。価格はB5判、651頁、12,000円で土木学会へ申し込みとなっている。本件については、共催している関係上告示することを了承。

2) 書誌記述に関するシンポジウムの開催について。  
日本学会議学術情報生産流通問題特別委員会委員長 小野周氏 から通知があり、アンケートの提出についても依頼があった。これに対し、“天気”“気象集誌”担当理事が検討することになった。  
承認事項 佐藤文男ほか10名の新入会員を承認。

## 評議員 理事 監事 懇談会記録

日時 昭和54年1月18日 17.30~19.00

場所 如水会館

出席者 評議員：有住，磯野，小林，関原，山本  
常任理事：岸保，小平，内田，植村，奥田，関根，新田，松本，増田，山下，山元（理事）  
監事：当舎

### 懇談事項

岸保理事長あいさつ 当学会運営のために平素ご配慮、ご協力を賜わり、お蔭で学会も順調に運営されている。本日は、会員増強、新しい賞、データセンターなどの話題について忌憚のないご意見を賜りたい。

1. 会員増強について 小平庶務理事から、次のとおり説明があった。(1) 気象庁を退職される方が退会される。数年後には退職者が多くなるので問題である。(2) 若い層の会員を増やすよう天氣にキャンペーンをし、現会員から周辺に呼びかけてもらう。(3) 財政的にもプラスになるよう賛助会員を増してゆきたい。支部、役員との協力を得て賛助会員をもう一度見直しその獲得に積極的に働きかけをする。(4) 従来は、賛助会員を獲得してもらっても支部への見返りがなかったが、今後は賛助会費の10%を還元することを考えている。これに対し、ふやし方、やり方について意見が交され、新聞社、航空関係、電力会社や気象測器工業会などをもう少し打診してみたらなど有益な意見をいただいた。
2. 新しい賞について 岸保理事長から、山本賞の経緯について説明があった（常任理事会議事録参照）。この山本賞は、春の総会に提案して承認されれば来

年春の総会の時から受与される。選考委員は、“天気”“気象集誌”の両編集委員から出してもらい、優れた論文を発表した新人を選ぶ。これに対し、年齢の問題、その年に優れた論文がなかった場合どうするかなどの意見が出されたが、ケースバイケースでうまく運営されるようにとの意見が出された。

3. データセンターについて 用務のため上京中の山元理事から長期計画のうちのデータセンターについて次のとおり説明がなされた。データセンターの設置については、長期計画委員会で以前から問題になっており、誰でも有効にデータを利用できる機関の出現を望んでいる。気象研究所が筑波研究学園都市へ移転した後の施設の利用、気象庁を経ないデータの入手など検討してみる必要がある。とくに気象衛星“ひまわり”のデータが使いづらい。気象協会を通して利用すると非常に高価になるので考えてほしい。また、FGGEのデータの有効な利用計画を立てることが必要である。これについて、気象庁側から資料センターについては観測部で検討していること、FGGEの中のRegional Center アジアの第2地区の資料は気象庁へ入っていること、世界資料入手については予算的に困難であること、などの説明がなされた。また、気象衛星資料の入手、データの処理の問題、データセンターのあり方などに関して種々の意見が出された。今後時間をかけて検討を要する問題であるが、基本的な構想を作る上で非常に有意義な意見と示唆が寄せられた。そして和やかなうちに懇談会を終了した。